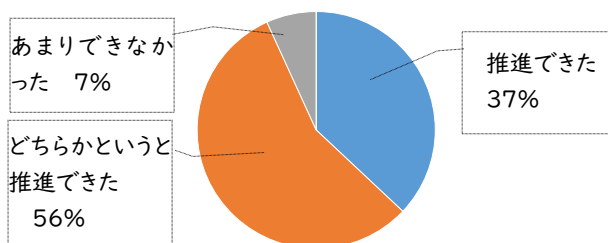


未来に生きる人財のための学力向上 授業改善進み、子供が主役に

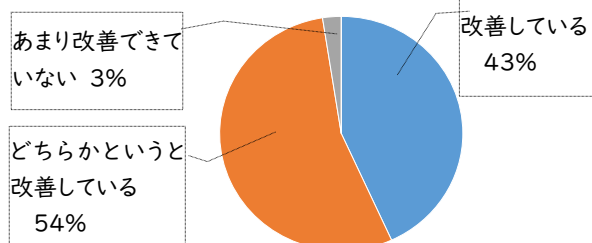


「すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり」に向けた、本年度の水戸教育事務所重点事項の1つである「未来に生きる人財のための学力向上」の取組について、1月にアンケートを実施しました。管内全小・中・義務教育学校からの回答結果は次のとおりです。

①「問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びの推進」について



②「単元を見通した、子供一人一人が主役となる授業改善」について



アンケート結果からは、各学校が探究的な学びとなる単元をデザインし、子供一人一人が主役となる授業改善に取り組まれたことがわかります。県の学力向上推進プロジェクト事業「学びのイノベーション推進プロジェクト」においても、実証研究校では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指したモデル授業を発信することで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、児童生徒の学力向上に資する」ことを目的として授業改善に取り組みました。管内では、那珂市立第一中学校(国語)、水戸市立梅が丘小学校(社会)、東海村立東海中学校(理科)の3校が、公開授業を含む年間3回の研究授業を行いました。公開授業を参観された先生方からは、今後自校で取り組んでいきたいこととして、次のような感想が聞かれました。子供たちに必要となる資質・能力の着実な育成を目指して、教職員も学び、学び合いながら授業改善を続けていきましょう。

学びのイノベーション参加者の感想

- ・本時の見通しをもたせ、自分の学習の進捗状況に応じて時間配分や活動内容を選択できるようにしていきたい。そうすることでより主体的な学習になると感じた。
- ・教師主導で教材文の読み取りに終始する授業ではなく、生徒主体の探究の時間が十分に確保されていた。グループ編成も固定ではなく、その時に解決したい事柄に合わせて流動的で、目的に応じた相手と学びを進めていた。
- ・ICTを活用することで、互いの考えの見える化を図れることがよいと思いました。対面で話し合うよさと組み合わせながら活用していきたいです。
- ・児童がICTを活用、見付けた工夫を調べ、まとめ、協働で発表していく過程は大変参考になりました。本校でも積極的に学習に取り入れていきたいと思います。
- ・授業者である教員の指示は少なくとも中学生が自分たちで考え、結果や考察をまとめていく姿が素晴らしいと感じました。小学校の授業においても、指示を少なくし、子供たちに任せる授業を展開できるよう、研修を積んでいきたいと感じました。
- ・生徒が学習方法を選択することにより、主体的に取り組むことができる複線型授業に取り組んでいきたいと思いました。

